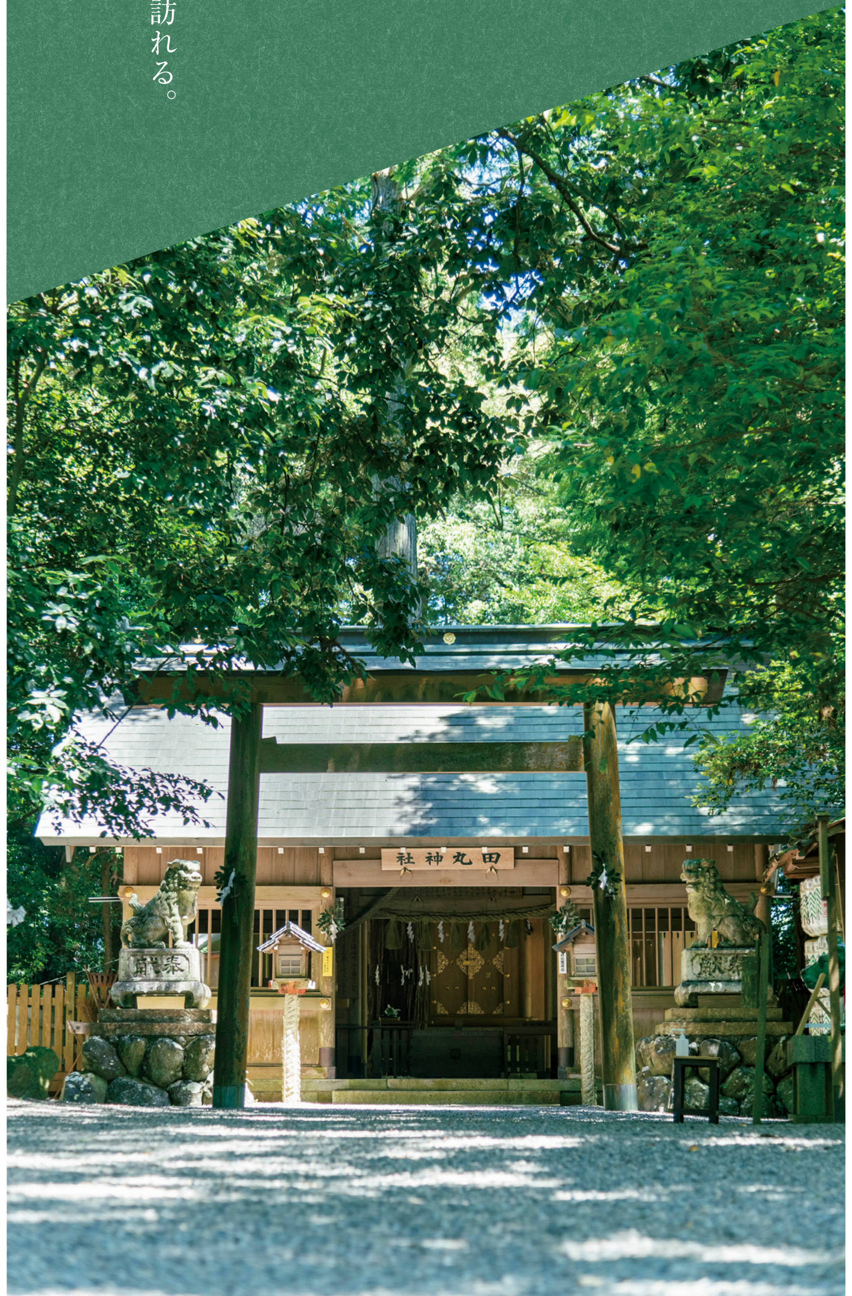
巻頭特集

緑の杜に鎮まる神々が地域を見守る

田丸神社

玉城町のシンボルである田丸城跡の近くに位置する田丸神社。境内には菅原道眞公のほか、多くの神が祀られていて、学業成就や厄除、また病気平癒などのご利益を求め、参拝者が訪れる。道眞公ゆかりの臥牛には、受験生が足を運ぶ姿が見られる。



氏神への篤い信仰の歴史が田丸藩文書にも記される

玉城町の城跡周辺は、大和につながる初瀬街道、熊野に向かう熊野街道、そして伊勢神宮への伊勢本街道が通り、宿場町として栄えた要衝。

田丸神社宮司
見並 倫さん

そんなまちの中心部に氏神の「田丸神社」がある。城の石垣からほど近く、鳥居をくぐって石段を上ると、明るい緑の杜の中に社殿が佇む。

拝殿に立てば、御神木のヒノキに目を奪われる。幄舎（あくしゃ）を突き抜けてそびえる姿は力強く、樹齢百年は優に超えると思わせる幹の太さだ。「ヒノキのほか、雑木も伐らずに残して、杜の管理をしています」

田丸神社の拝殿より。本殿につながる屋根の幄舎を突き抜けて、御神木のヒノキが伸びる

と田丸神社宮司の見並倫さん。豊かな植生に囲まれた境内では、真夏でもひとときの涼に浸ることができる。

田丸神社の創建は明らかではないが、室町時代以前に遡り、元はエノキの大木を御神体として天神を祀り、降雨止雨を祈願する農耕の神だったとの口伝がある。また江戸時代の田丸藩文書『「弘化二（1845）年六月」上町天神来歴留』には、寛永20（1643）年、二代城主の久野宗晴公により社殿が造営されたと記されている。そして元禄15（1702）年、三代城主・久野宗俊公が京都の北野天満宮より菅原道眞公の分霊を勧請して天神社を造営したとある。また元禄元年より、城下町田丸が幾度となく火災に見舞われたため、火難厄除に八意思兼神（やごころおもいかねのかみ）と忌部神（いんべのかみ）を天神社に共に祀った。それ以来平穏な日々が続き、防火の神としてのご利益も広がっていったという。

明治時代の神社合祀により、社名が田丸神社となり、学問の神・菅原道眞公をはじめ20柱の神々が鎮座し、天神信仰のもと学業成就、厄除、病気平癒を願って地元のみならず各地から参拝者が訪れている。

天神様に願いを運ぶ臥牛をなでることでご利益祈願

拝殿前の一角に横たわる臥牛（がぎゅう）は、人々の願いを天神様に運んでくれる、いわば天神様の使いで、「願かけ撫で牛」と呼ばれている。訪れた人々は、牛の頭や足などを願いを込めて触り、その前で手を合わせる。「道眞公は承和12（845）年の丑年のお生まれで、亡くなられたのは丑の日でした。太宰府に左遷されることになったときには牛に救われたという話もあり、また遺骸が牛車で運ばれる際、牛が足を止めて座り込んでしまった地に墓所を造ったのですが、それが現在の太宰府天満宮になっています。天神様の牛のほとんどが座った状態なのは、この逸話からきています」と見並宮司。

1 筆塚。道眞公は書道の神としても広く信仰を集めた天神様。田丸神社では年に一度、書道展も行われている 2 臥牛の「願かけ撫で牛」 3 浅間神社。延宝2（1674）年に勧請されたと伝わる 4 臥牛や合格鉛筆など、田丸神社特有の授与品が並ぶ 5 たまる石・祓石 6 御朱印と色使い鮮やかな擬革紙の御朱印帳

右隣には筆塚がある。文武両道で書道の神としても信仰を集める道眞公にあやかり、学問成就や書道上達を願う。また小さくなった鉛筆や傷んで書けなくなった筆に感謝を込めて筆塚に納めると、毎年7月25日の筆塚祭の日に供養される。

石段を降りて社務所の向かいには、注連縄の掛かる「たまる石」「祓石（はらえいし）」が見える。願いを託した串をたまる石に捧げると福が〝たまる〟とされ、祓石は撫でると穢れを祓うことができるといわれる。

社務所では田丸神社特有のお守りや縁起物が頒布されている。陶器製の黒い小さな「願かけ撫で牛」は、「学業には頭を、平癒祈願には患部を、出産のときにはお腹と、それぞれをなでて願いをかけます。それが叶ってお礼参りにみえると、この臥牛を拝殿に置いていかれます」と、成就すれば神前へ返す慣わしになっているという。

御朱印を受ける人も増えているというが、三重県の指定伝統工芸品である擬革紙（ぎかくし）の御朱印帳が授与所に並ぶ。江戸時代、和紙にしわや文様を付けて革に似せた風合いと着色を施したもので、現在は玉城町に工房があり、伊勢参りの代表的な土産を復活させている。

神輿と獅子が祭りの主役 地域の氏神に親しむ機会

毎年10月と2月には大祭が行われる。町内を巡行して厄払いや安泰を祈願する。秋には天神神輿が威勢よく渡御し、春には獅子に頭をかんでもらうと病気にならないとされる神事に人が集う。「大祭では神様がお神輿にお載りになり、町へお出ましいただきます。獅子頭は単に獅子舞の道具ではなく、御頭自体が御神体です。従って係るお祭りは、イベントという捉え方でなく、ご奉仕の意識が高くあります。このところのウイルス感染症の影響で、お神輿の渡御は2年中止となっていて、継続できるかを危惧しています。地域に古来の祭りがあること自体ありがたいことで、土壌なしには、なかなか新しくつくれるものではありません。祭りはかけがえのない財産です」と見並宮司。

また見並さんは下外城田神社の宮司でもあり、下外城田では青年会が中心となって、7月に「七夕祭」が行われている。縁日や踊りの奉納などの催しがにぎやかで、保育所や小学校の子どもたちの願いをしたためた短冊が境内を彩る。

6月最終日曜には浅間神社の例祭があった。「日本人は太古から山をきれいにしていました。山に降る雨は川となって潤し、里と海を守ることにつながります。水や生物の生産の源泉である山は未知なる危険も潜み、古代人は畏怖の念も抱いてきました。水の供給が田にとって重要な6月に祈りを捧げます」。さまざまな恩恵や恐れを肌で感じてこそ、感謝が生まれるのだろう。

神社は文化発信の拠点ともなり、大切な地域資源の一つ。見並宮司が人々をつなぎ、氏神の歴史が積み重ねられている。

7 地域で流行した疫病退散を祈願して始まったと伝わり、獅子頭や獅子舞は町有形無形文化財に指定されている
8 法被姿の有志に担がれ、神輿が町内を回る

田丸神社
玉城町下田辺1041
☎0596-58-4007

田丸神社のおもな行事

10月第1日曜　神輿渡御
10月第1月曜　秋季大祭
2月第3土曜　獅子頭巡幸
2月第3日曜　例祭

文／中村元美　写真／清水光市　写真提供／田丸神社　デザイン／chica